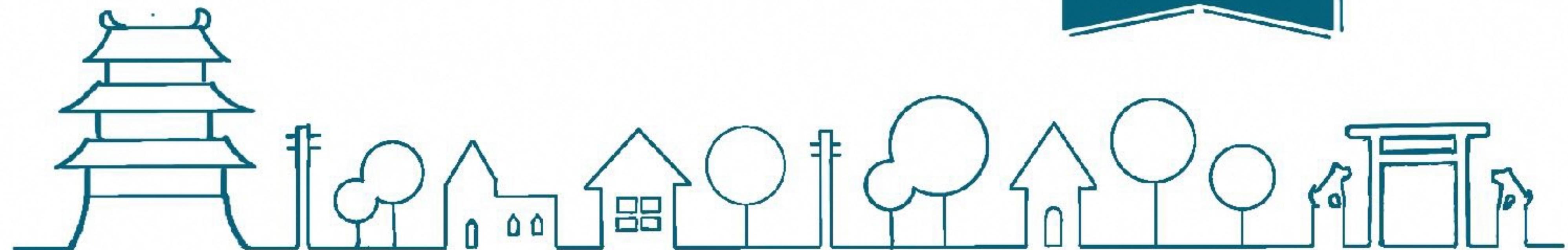


まちラボ学生プロジェクト

空き家の利活用案

in白河市



概要

outline



大東文化大学・創造サークルPARTIDA（顧問・神部准教授）の夏季活動として、福島県白河市を訪問。

3泊4日、宿泊所として提供されている古民家をベースとし、地元の食材を活かした食事を自ら用意し、農作業や温泉などの地域文化に浸る。

コロナにより、身体性をともなう体験が希薄だった大学1、2年生にとって、初めて意識する「地域」が白河市となる。新鮮な感性で「地域」の未来はどう見えるのか、「空き家の利活用」という地域課題を通して考え、具体的なアイデアを出す。

※白河市まちラボ学生プロジェクト支援事業

<https://www.city.shirakawa.fukushima.jp/page/page005827.html>

スケジュール schedule

8/17

神部先乗り
まちなか宿泊

18

らくりにて打ち合わせ
空き家下見

19

南湖公園下見
野出島住宅布団、食材運び込み
本宮さん打ち合わせ

20



学生到着
オリエンテーション
空き家見学
インタビュー

21



農業体験
そば打ち体験

22



自由行動
(狛犬ハンティング・
自然散策など)

23



清掃
チェックアウト

目次

contents

1. 地域コミュニティ活用



2. 創作活用



3. 新たな観光開発の資源



4. その他の提案



1.

地域コミュニティ活用

学び



遊び



1.

◆ アイデアの背景

空き家の見学は、まず全員で、旭町の空き家（伊藤一也さんが活用計画中）を見学。

続いて、二手にわかれ、小学校近くの3軒固まった空き家と、東地区の空き家を視察。

学生の中には「空き家」という言葉から、寂しげな一軒家を想像していたものもいたが、ごく普通の住宅地の中にあることが印象に残った様子だった。

「地域コミュニティ」として活用するという案は、住人たちの生活の場の中にある建造物という特性に注目したアイデアと言える。（神部）



1.



地域イベントの開催、個人塾やそろばん教室を開室します。これらは、特別な改装や必要な道具といった初期投資が少なく、実現が比較的容易です。また、塾を始める時の心配事である道具の収納場所がない、広いスペースが用意できないといった問題を解決することができます。

1.



本やおもちゃを置くことで子どもたちが遊んだり休んだりできる場所を提供します。例えば、選書ひとつとっても、図書館のようにしたり、あえて地域のテーマに絞って新しいコミュニティ空間のようにしたりと選択肢は多彩です。空き家の空間を自由にカスタマイズできる利点を存分に生かし、古民家ならではの憩いの場を子どもたちに創出します。

2.

創作活用

絵画



音楽



料理



撮影



2.

◆ アイデアの背景

今回の合宿は、学生自ら体を動かすことを重視した。

「蕎麦打ち」や「農作業」などイベント性のあるものに加えて、当たり前の生活である「炊事・洗濯・掃除」を欠かさず行った。

空き家の活用を考えるために日常生活への想像力は必要不可欠。地元の人なら必ず行っている、地場産物の買い物や温泉入浴もこの一環ということになる。

見学した空き家は生活インフラに難があったが、その欠点を克服するアイデアとして創作活動の場にするという案が多く提案された。（神部）



2.



絵画や彫刻制作ができるアトリエとして貸し出します。通常、絵画制作には絵の具などの多くの画材を使用しますが、これらは汚れたり場所を取ったりするため、民家では気を遣うという欠点を持ちます。とても広く、汚れに関する心配のない空き家アトリエならば、芸術家たちが気兼ねなく創作に打ち込める理想の空間を実現可能です。



2.

音楽教室もしくは音楽スタジオとして活用します。楽器や
バンド活動に伴う騒音問題を、空き家、地方という利点
を駆使して解消できます。防音設備を施す必要はありま
すが、実現できれば地元ミュージシャンの録音・制作や軽
音部の学生の活動拠点にするなど、地域活性化も望め
るでしょう。



2.

料理教室、ラーメン・そば打ち体験など料理が可能な場を提供します。空き家は元が民家のため、キッチンといった料理設備が使用できます。民家で個人パン教室を経営しているという前例があるため、設備を整えれば様々な食品への応用が期待できます。特にラーメン・そば打ち体験が実現できれば遠方からの観光客へ白河の麺類をアピールする手段として非常に魅力的です。

2.



映画やドラマの撮影セットとして貸し出します。また、その際の宿泊施設としてや、カメラの機材の保管場所としても利用可能のため長期撮影、ロケ撮影の全般の工程への対応が可能です。そのほかに家の損傷レベルに合わせて外観を選ぶため幅が広がる、空き家の宿泊利用によって使用料を抑えることができるという利点を持ちます。空き家、田舎というシチュエーションを活かしたエンターテインメント産業への参加は地域の活性化に繋がります。

3.

新たな観光開発の資源



3.

◆ アイデアの背景

初日に白河イントロダクションとして、ラーメンを食べ、小峰城を見学。

3日目は、初日、2日目の経験を踏まえ、個々の関心に沿って行動する日とした。

こうして街との接点が増えたことが、白河を知ってもらうための観光拠点として空き家を活用するアイデアにつながった。

教育的見地からも、定番の観光に加え、個人の興味で深く関わる機会を並走されることは、短期間で街を立体的に捉え、独自の視点を探す有効な方法だという感触を得た。（神部）



3.



ライダーの休憩所として活用します。これはバイクやロードバイクで走る人が多いという白河市の特色を活かしたもので、休憩所ではお土産を販売する道の駅のような利用方法の他に、古民家の見学も可能にし、空き家バンクに登録されている空き家への立ち寄りも促進します。

3.



ドッグラン、保護活動、ふれあいなど動物と関われる場所として提供します。これらの場所は共通して動物を飼っている人や動物好きのコミュニティをつなぐ役割を果たすため、地域交流の活性化が望めます。また、近隣の児童施設との連携によって教育に活用することも可能です。

4.

その他の提案



マップのリニューアル



地域の豊かさを企画に

4.

◆ その他の提案について

ここでは、「空き家の利活用」の枠から少しはみ出る提案を紹介する。

ひとつめの「マップのリニューアル」は文字通り、白河での体験から発見した改善のアイデア。

ふたつめの「地域の豊かさ」は白河の文化に注目したアイデアである。先述の「1・地域コミュニティとしての活用」をさらに深掘りして、白河の人や家に刻み込まれた風土や歴史、つまり日常の中に生きる文化をまとめて企画にする案、言い換えれば、この夏我々が体験したこと（の一部）を持続可能なコンテンツに昇華するというアイデアである。（神部）



4.



いくつかマップが提供されていますが、目的に沿うものになっているか、検討が必要だと感じました。

例えば散策マップをもとに歩こうとすると距離感がつかめず、イラスト調で描かれているため目印を探すのも簡単ではありません。

対策としては、地元の高校生あるいは私たちのような県外からきた学生らに歩かせ、見どころと距離がよくわかるものにしてはどうでしょうか。（続く→）

4.



また、狛犬めぐりはとても興味深く、印象深い活動でした。写真と解説の文章が魅力的でどれも見てみたくなるのですが、地域に疎いものからすると、それを回ることが現実的に可能なのか、どれほどの時間がかかるのかわかりません。

対策としては、交通手段と所要時間別にいくつかモデルコースを提案する形にしてはどうでしょうか。

4.



今回の体験を通して、もっとも印象に残ったのは、蕎麦打ちや農作業や街歩きを通しての人との出会いでした。地域にとっては当たり前の仕事や立ち話でも、県外から訪れたものにとっては温もりのある経験です。この経験を企画として提供できないでしょうか。ありきたりの観光メニューにしてしまうと経験として浅くなってしまうので、例えば、空き家を巡りながら、地域のお年寄りに昔話を聞くようなツアーはどうでしょうか。（続く→）

4.



ツアーとすると案内人が必要なので、期間を決めて、空き家を開放し、近くに住むお年寄りに訪問者がきた場合の対応をお願いしておくなどはどうでしょうか。地元で古くから使われていた農機具や、昭和家電も学生にとっては珍しく興味が持てるものなので、骨董品として展示されているといいと思いました。空き家を観光資源として考えられればいろいろな企画ができる気がします。

最後に



白河市役所 市長公室 企画政策課のみなさん
野出島地域活性化プロジェクト 本宮直さん
トマト農家 和知久衛さんと家族のみなさん
地域おこし協力隊（移住担当） 渡邊秀幸さん
白河をワクワクさせる合同会社 伊藤一也さん
白河市創造者支援施設らくりのみなさん
株式会社ハッピーエンジン 菅山リンダ明美さん

本合宿の実行においては、以上のみなさんを始め、白河市のみなさんにお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

大東文化大学・PARTIDA一同